

委員会調査(研修)報告書

NO.

令和 8年 5月26日

胎内市議会議長

八幡元弘様

(報告者) 厚生環境常任委員会
委員長 羽田野孝子

厚生環境常任委員会行政視察研修 について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 令和 8年 5月20日 至 令和 8年 5月22日 2泊3日 (3日間)	調査・研修 場所	・釜石市役所 (岩手県) ・福祉の拠点こみっと (秋田県)
調査・研修 事項	① 在宅医療と介護の連携を推進する「チームかまいし」について ② ひきこもり支援について		
調査・研修 出席者(参加者)	議員：羽田野孝子 坂上隆夫 渡辺栄六 小野徳重 坂上清一 渡辺秀敏 森本将司 笥智也 増子達也 平井孝 市職員：議会事務局 新保 斎		
相手方(対応者)	「釜石市役所」 議会議長 千葉 榮 議会事務局次長 山崎教史 保健福祉部地域包括ケア推進課長 小田島史恵 「福祉の拠点こみっと」 藤里町社会福祉協議会会長 菊池まゆみ 事務局長 門田 真		

調査の結果または概要

「在宅医療と介護の連携を推進するチームかまいし」は2011年3月11日の東日本大震災時に即、釜石市災害対策本部医療班が設置され、行政と医師会が顔の見える関係ができていたため毎日17時にミーティングが行われた。その素地の上に2012年7月から厚生省モデル事業の採択を受け、地域包括ケア連携拠点チームかまいしを設置した。医師会からアドバイザーが派遣され連携コーディネーターを配置し、医療・介護資源の把握、切れ目のないサービスの提供、各職種団体の研修支援等を行い、リハ士会設立等が実績。「ひきこもり支援」は、秋田県藤里町2026年4月現在人口2,644人、1,280世帯、高齢化率52.1%。社会福祉協議会職員54人。2010年ひきこもり者及び長期不就労者及び在宅障がい者等支援事業として、福祉の拠点こみっとを開設した。同意を得たひきこもり者113人に情報提供訪問を実施した。こみっとでは就労訓練・求職者支援事業・職業体験プログラムを実施し、その結果、対象者113人とのつながりを構築し、8割位の自立に繋がった。

調査の所見・感想

在宅医療と介護の連携を推進する「チームかまいし」は日常の療養支援、スムーズな入退院支援、急変時の対応、本人が望む場所での看取りの4つの充実を目指していた。各職種団体の課題、職種間の課題、地域全体の課題を解決・手法の提案をしていた。各会の充実（医師会・歯科医師会・薬剤師会・リハ療法士会・栄養士会・介護支援専門員連絡協議会）多職種の連携が深まり改善されていった。各団体が自らの努力で改革が行われ広がりを見せているとのこと。チームかまいしの取り組みに感心した。

「ひきこもり支援」は113人のうち、こみっと支援で自立が31人、独自に自立が55人、変化なしが25人、その他が2人であった。また、ひきこもり者等支援は新たな展開に向かっており、福祉対象とは違う新たな生活困窮者が明らかとなり、例えば障がい者境界線上の人や単に職に恵まれない生活基盤の不安定な人等、2026年度で166人いました。他方で、2015年からプラチナバンク事業も展開し、18歳～100歳まで町民だれもが生涯現役を目指せる町づくりを実践していた。時代に合わせた精力的で発想のある取り組みに感心した。